

生成 AI の活用法、まだ「文章作成」だけだと思っていないですか？教育現場を劇的に変える、知られざる 8 つの実力

「生成 AI」と聞くと、多くの人がレポートの作成や文章の要約といった活用法を思い浮かべるでしょう。しかし、生成 AI の真のポテンシャルは、教育者が日々の業務や授業を根本から変革する、さらにクリエイティブで強力な領域にあります。

この記事では、研修資料の中から厳選した「教育現場で本当に役立つ、インパクトの大きい生成 AI の活用事例」を 8 つのリスト形式で紹介します。この記事を読み終える頃には、あなたは「これをまず試してみよう」と思える具体的なアイデアを、少なくとも 1 つは持ち帰ることができるはずです。

インパクトのある活用事例のリスト

1. 単なる検索の先へ：AI があなたの「専属リサーチアシスタント」になる

Deep Research 機能は、従来の検索とは一線を画します。例えば **Gemini** に搭載されているこの機能は、単一のテーマについて数百もの Web サイトを横断的に調査し、背景や関連性まで考慮した深い洞察を含むレポートを自動で生成します。もし的確な指示（プロンプト）の作成に自信がなければ、AI にプロンプト自体を作ってもらっても可能で。

専門的な論文調査はもちろん、「生成 AI を活用した教育事例」といったテーマでリサーチを行えば、世界各国の最新の実践を網羅的にまとめたレポートが短時間で完成します。作成されたレポートは Google ドキュメント形式でエクスポートして編集したり、チームで共有したりすることも簡単です。これにより、教育者は調査にかかる時間を大幅に短縮し、より本質的な業務に集中できます。

2. 1 つの資料が無数の教材に変わる：「NotebookLM」によるコンテンツ再生産

NotebookLM は、情報から価値を生み出すための強力なツールです。先ほどの Deep Research で作成したレポートのような資料を読み込ませるだけで、AI がその内容に基づいた多様なコンテンツを自動生成します。例えば、音声による解説、内容を整理したマインドマップ、要点をまとめたレポート、さらには生徒が暗記に使える学習用のフラッシュカードまで、あらゆる形式に変換可能です。これにより、教師は 1 つの情報源から、生徒一人ひとりの多様な学習スタイルに合わせた教材を瞬時に用意するという、画期的なアプローチが実現します。

3. 教材は「作る」から「描いて指示する」時代へ：「nano banana」による画像生成

情報を再構成するだけでなく、全く新しい視覚教材をゼロから生み出すことも、もはや専門家の専売特許ではありません。画像生成 AI の進化は、教材作成の常識を覆します。例えば「**nano banana**」のようなツールを使えば、簡単な言葉の指示で高品質な画像を生成できるだけでなく、より専門的な編集も可能です。特筆すべきは、手書きで描いた簡単な図をプロのイラストに仕上げたり、人物や背景の一貫性を保ったまま髪型だけを変えたりといった、教材作成に直結する機能です。これにより、視覚的に訴える教材を、これまで以上に簡単かつ高品質に作成できるようになります。ただし、こうした新しいツールの利用にあたっては、常に所属機関のガイドラインを確認することが重要です。

4. 生徒と AI が協働する絵本作り：「Google Storybook」

「**Google Storybook**」は、AI との対話を通じてオリジナルの絵本を制作できるツールです。ストーリーのアイデア出しから文章の執筆、挿絵の作成まで、AI がクリエイティブなパートナーとして一貫してサポートします。例えば、ある単元の学習内容をテキストとして入力し、それを元に AI と協力して絵本を

制作する、といった活用が考えられます。これは、単元のまとめや導入として、生徒たちが主体的に表現活動に取り組む新しい形の協働学習の可能性を拓きます。

5. 類題も「よくある間違い」も AI が作成：個別最適な問題演習の実現

Gemini のような大規模言語モデルは、問題演習の質を劇的に向上させます。既存の長文問題や計算問題をもとに、形式や難易度が類似した問題を瞬時に複数パターン作成することが可能です。これにより、生徒は十分な量の演習をこなせます。さらに応用的な使い方として、「生徒が間違いやすいポイントを踏まえた誤答」を AI に作らせ、それを生徒に発見・修正させるという活動も考えられます。これは、生徒が自身の理解度をより深く内省し、本質的な学びへとつなげるための効果的な手法です。

6. 校外学習の計画も AI と対話しながら：「Google AI 検索」による行程作成

修学旅行や校外学習のプランニングは、時間のかかる複雑な業務です。「**Google AI 検索**」を活用すれば、このプロセスを対話形式で効率化できます。目的地、予算、期間といった条件を伝えるだけで、AI が具体的な行程案を複数提示してくれます。これは単なる時間短縮に留まりません。AI をブレインストーミングのパートナーとして活用することで、これまで思いつかなかった新たな視点やアイデアを得るきっかけにもなります。

7. プログラミング不要！先生が作るオリジナル教材アプリ

生成 AI の活用法の中で、教育者にとって特にインパクトが大きいのが「ノーコード開発」です。プログラミングの専門知識がなくても、教師自身が授業に合わせたオリジナルのデジタル教材を開発できます。こうしたアプリは、生徒が**即時にフィードバックを受ける**ことができ、**ゲーム要素や高いアクセス性**を持つため、従来のアナログ学習にはない強みがあります。

- **個別最適な学習支援**： 生徒が自分のペースで学べる「英単語学習アプリ」「地図パズル」「平方完成ゲーム」など。
- **協働的な学習の支援**： グループワークや遠隔授業で使える「音楽カードアプリ」や「物理シミュレーション」など。
- **内容理解の支援**： A/D 変換や「**ヤングの実験シミュレーション**」など、抽象的で理解が難しい概念を視覚的に学べるツール。

これらのツールを教師自身が自由に設計・作成できることは、教育の個別最適化を大きく前進させる革命的な変化です。

8. 面倒な情報収集は完全自動化：AI ワークフローで「自分専用メルマガ」を作る

日々の情報収集や定型業務は、「**AI ワークフロー**」で完全に自動化できます。例えば、「生成 AI を活用した教育実践」といったキーワードを設定するだけで、関連する最新情報を AI が Web 上から自動で収集・要約し、毎日メールで届けてくれる「自分専用メルマガ」を構築できます。これにより情報収集の時間が不要になるだけでなく、「毎授業の小テストを自動生成する」「**時事問題についての読解問題**を作成する」「復習用資料を定期的に配信する」など、これまで 15 分かかっていたような定型業務をワンクリックで完了させるシステムも構築可能です。一部、API の設定など自身で行う作業もありますが、それも初心者でもすぐに実行できるレベルです。

結論：次の一步へ

ここまで見てきたように、生成 AI は単なる文章作成ツールではありません。リサーチ、多様なコンテン

ツ制作、さらにはオリジナルアプリの開発や業務の自動化までを可能にする、教育者のための強力なパートナーです。

大切なのは、これらのツールをどう使うかです。専門知識は必要ありません。重要なのは、あなたの教育実践をより良くしたいという思いと、ほんの少しの好奇心です。

さて、あなたは明日から、どの AI ツールを使って授業や業務に新しい風を吹き込みますか？